



クローズアップ
今を生きる 人がそが宝
第14回

J A北びびき農協青年部和寒支部
支部長 松本 学(まつもと まなぶ)さん
地方の良さをアピールし、地域を守っていくことが大事

農業への興味から

中和の松本克彦さんの長男として生まれ、小さな頃から農業に親しんできた。

高校卒業後は、農業が農家であったことから、農業に興味を持ち北海道大学農学部に進学し、農業について学ぶこととなる。

そして、卒業後は農業に係る仕事に就こうとJ A北

海道中央会に就職。米穀農産課や酪農畜産課、苫小牧支所などを経験した。

特に、米穀農産課時代に

は、北海道で初めて転作面積の傾斜配分が導入された年であり、市町村の転作面積に大きな影響を与えることから神経を使い、土日もなく徹夜で作業をしたことが一番印象に残っているという。また、米

価や畑作物の価格、農畜産物価格の要請行動のため、事務局として農林水産省をはじめとした関係機関を訪れることも多かったという。

しかし、多くの生産者の声や自らの体験から、生産現場と指導する立場のギャップなど、次第に疑問を感じていくようになる。

また、転勤も多く、家族と一緒に暮らしたい、家族みんなで仕事ができる農業にあらためて魅力を感じ、平成14年2月、28歳にして農業を継ぐことを決意した。

農業後継者として

これまで、サラリーマンとして生活し、デスクワーク中心の生活から、一転農業の道へと転身したが、まったく慣れない仕事に、最初の1年は体力的にも精神的にも、とても厳しかったという。仕事についていけない。経験不足などから情けなさも感じたという。

そんな、松本さんではあるが、既に経営移譲を受けてか

農業から学ぶこと

農業は1年に1回の作業の結果が、その年に影響をずる。デリケートでシビアな仕事。しかし、いくら努力しても自然の力にはかなわない。農業の厳しさを実感しているという。

これからの目標

松本さんは「無理な経営規模の拡大をせず、係数管理を徹底した、無駄のない経営に取り組みたい」また「エリアにこだわらず、地域のネットワークや情報交換を大切に、農業を守り育てたい」と語ってくれると同時に「地方ならではの良さを積極的にアピールして、少ない人数でも地域を守っていくことが大事」と語ってくれました。

ら、3年が経過した。現在は、水稲をメインに、ソバや南瓜などを作付けしている。そして、昨年には北びびき農協青年部の部長も経験し、現在は和寒支部の支部長を務めている。



松本 学さん [J A北びびき農協青年部和寒支部支部長] 35歳
和寒町字中和 TEL0165-32-4086 出身：和寒町
経歴：1986年 和寒小学校卒業 1989年 和寒中学校卒業
1992年 士別高等学校卒業 1997年 北海道大学農学部卒業
1997年 J A北海道中央会米穀農産課 1999年 同酪農畜産課
同年 同苫小牧支所 2002年 和寒町に就農
趣味：音楽鑑賞